



小野篁八十嶋ふげ美々之四之下

○ 第十二回 ととぞ

却説利倉光則が私彦比喩を残害て離給朱もれ阿雲が田里
の足利山住の爺親とづれハ原陸奥東折の兵衛定夷が家
隸小宮木勘太夫とづひー的なりーう定夷死後又其子定角あれ
的賊黨小ちせし。一年ばかりハ勘太夫も従ひ居とどき。善
心あり思ひあうあれと悔くみづきあらと翻く。定角小練言せ
かじ。聽しきざつりゆゑ。竟よ主と看限る。武と慶く坊賣とす
おの下野よ曳草蠶糸真綿を買集て平安へのぢ。支易と書き
一居けふ。友の仲媒とて菅子と云ふと娶て妻とし。子も産せ
勘太夫の死程多く躬まことに。遺腹子代女と阿多くふくれん。

勘太夫の主命とひうて。一旦兜徒の荷擔し財と倫制を祀せり。ども
みて。本心よりまことに。舊事の因果追とぞく。女もかゝれ。爰葉
小女。遇すれうべ。さとも菅子へ梳ふ。おとえ。今へうた夫と申す
も憂侘住居。獨りて縫計の東作稼穡。よせと。子のめま
付胥侘。ねじひもかけ。女の阿露。去年のをと。里。朝
且は烟ほもくし。賤け小環。傍く。小操。返す。はれ二九の春。禁。情食
事。羞。處。小窓。娘。娘。他。小雛。取。一。貧。妻。う
縁。付。ん。す。婢。公。あ。が。一。鶴。う。孝。愛。と。帰。ひ。賣。否。う。六
ハ手。狎。一。業。き。と。ば。と。の。苦。劣。思。く。私。ど。ち。の。ご。う。偏。々。案。す。れ。へ
汝。が。惣。う。れ。言。姿。と。い。ふ。と。そ。ど。う。き。と。つ。ほ。ど。輕。更。氣。ふ。か。
平安の兄。う。帰。宿。う。六。又。せん。す。も。あ。り。う。ん。と。候。ど。も。る。と。齊。的。魚。

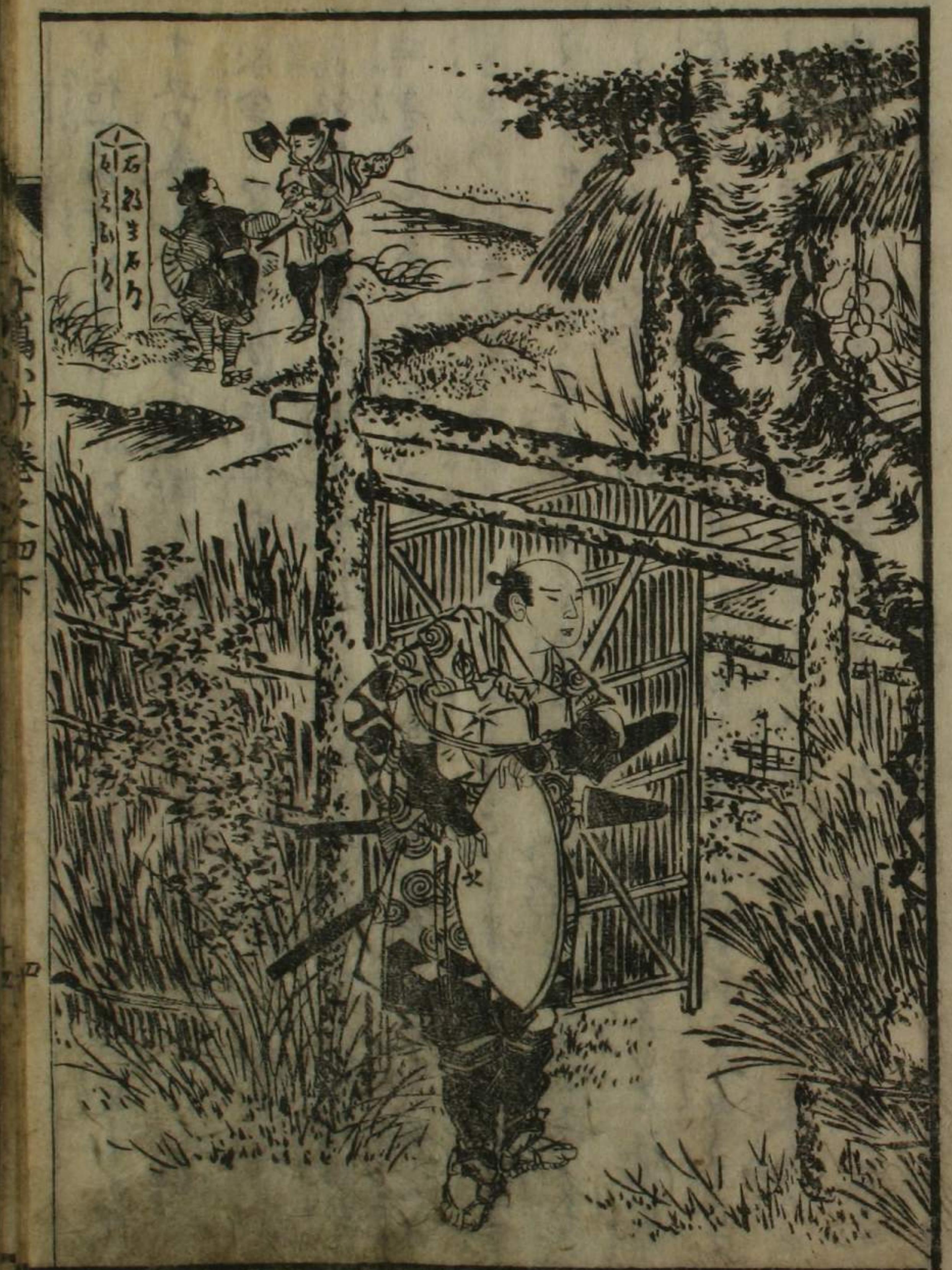
闇。小。迷。へ。奴。母。情。推。量。一。や。と。眼。小。う。し。あ。み。と。監。り。ど。石。理。あれ。お。は
恐。く。と。嬪。公。よ。り。の。ね。を。つ。と。れ。憎。悼。や。委。勘。と。胸。う。し。に。倡。タ。飯。と
と。な。ち。ら。う。と。ハ。汝。お。そ。食。事。ゆ。わ。と。り。と。も。櫻。の。栗。餉。う。と。欲。う。く。ね。バ
ぱ。じ。り。あ。が。一。瞼。眠。と。豐。締。果。て。亮。隔。と。穿。て。套。房。へ。よ。う。ア。高。と
獨。异。と。遣。懲。激。の。洞。活。利。倉。よ。令。す。う。り。し。と。人。の。底。衆。は。懨。さ。か
遁。と。結。句。通。と。え。ぬ。首。卿。の。況。身。と。盈。ハ。匂。安。と。身。よ。月。よ。ハ
け。ん。花。と。え。家。ハ。み。や。ま。木。賤。の。女。と。速。ぐ。寧。玉。の。猪。も。俗。よ。研。ぐ。と。藏。足
の。運。賽。づ。し。も。よ。れ。べき。綱。手。と。す。軒。ぐ。寧。玉。の。猪。も。俗。よ。研。ぐ。と。藏。足
て。須。磨。れ。意。小。後。と。明。石。水。忍。衝。石。す。れ。いく。度。も。人。目。の。笑。屋。を。す
ま。君。よ。徹。う。薄。雲。や。お。り。し。い。も。れ。の。一。言。と。遣。て。ハ。人。の。傳。み。よ
せ。え。な。げ。と。今。一。度。不。便。と。御。声。と。直。く。よ。聆。う。と。う。お。き。く。け。い

と。泣きうほはいきまく小慰むことありつけ。彦はすく小野
家士。松人幸記。千陽湯つて分失の御太刀吟味のうむを死。暇賜ひて
山陽山陰。四國九州南海東海諸方々を巡廻。がく下百日。這四
百八十日。年へ歩きどいきうの穿種毎。東山名づ故卿の下壁
小車で古跡。者施へ。と不忘脚。家宅をさとへ入る。附考
はは居て未対面同士。どうひよ妻時躊躇。松人こそへと熟
悉て。其才へ察究。阿露も。姫君の譚をまし。平安はねせし
阿露も。急速くかひて。姫君の譚をまし。平安はねせし
哥いよ。避返する。姫君も。おもて。始ひ。兄
と。査。執室へ。斯と吉よ。かし。周章。走り。あきへ
婚歟。好も。本。今鳥と。魂が為知てや。言出で

後詫う。何からいもんとつゞくも坐あれまで嫁へ。十二の年
紀か十三季。又まよびて健氣。母の老より嫁の阿露へ。爺
が其方と平安へ。れぞ。れぞ。うちへ。五家の行の頑智も。がくじ
宴と好妻女。よあくううの。ちとへたう。妻が言ことばりよ。わくま
も。呼往ひ。家い。まご。平安よ。兄あうと。しひーへ。傳う。寔へ其
方の許嫁の婚歟。壯夫風俗も。と。安憲。玄かくと。つばら處
も。慣れ果。よのともいふと。低れ平。喧。婚歟。妻よ。う。志悦す。ふえ
ゆ。今年へ。贅滿も。多く。と。嫁へ。おひと。勧追う。後。や。取
ゆ。採擣て。口。既まで。言。賣く。松人へ。板。地。査。す。と。遠つ
。迺家若齡。かく。無入。助太支辰。平安へ。贅系齋。の。いれ。と。召。侶と
まし。す。荷。送り附。向丸。す。綵帛舗。何某が。宅へ奉。公。有縁。

まんとおやど
松人娘里に
あらそおあく

さざうら



が。估客の業へ憂愁す。ふよりひ武の道と嗜み、竊剣と歌し笑へば。
十五の春とて、まうへ大抵の兵術、鍛練よ。生うれりゆづく。汝
家舎よつて似あひ。繒伸家へ仕ますと。小野李守卿の歿よ仕。
鳥羽庇衆を被つて、衆もを難遇他よ。近い已とも、卿のころ、粉骨
碎身死んゆのと。決定つて、うそうそ。うそうそ。八年以あ
ち思ひやれ勘太夫よ。脛中より死去で、ままで。消息まで、異審
こちあせりひしと。這方よりまく、音信までの。吊ひだらりよ。まく
さて許嫁の阿露よ。婚礼子をんと再三の音便へ。まくとひく
緊重とぞ。等不よ。せしへ。情敵と蒙る人。ちあれよ。今日まくア
ト。聊示の観。其譯へ六事つま。情供えよ。内彼の付室。雀丸の
沙劍を。何先よ。ちよび。裏表る。ちよびよ。うて暇と。諸よと。先ぐ

百折千磨。督課つて査聞すと。さへ小覓端えど。う。まの春東山道
を尋覈す。計ふど故にちくさう。うのとくよ疇昔縁すれ。徽繪と
ぞう。あら益の中よ往く益う。暉方より皇掛まで虚実と見
そ暗号うと。景までいもぞの間。うとあづき勘の冀と。弁旅
はさん居多の盤檻。うとひよこれど遠く。年月累々遣ひはせり
ちとせ金貯富と。拜借をねづく。さて今宵させら鷹丸
えくべ。明鳥い疾虫羽の方へ參積りよる。うと。うと
と。約々婢よ譚。詣忠願面。うと。主徳。うと。婢
熟。うと。黙て。うと。不慮災難。うと。されど其方の忠肝。うと。天も感應
す。うと。鶴。うと。掌よ入れもあらん。政々馬搜索。うと。入路費の黄金の
あと。貯禄みてへあけと。勘の年當うれよも。うと。取納すと。

す。かあらば幸いりゆふよ。何よまことに長途の宿々もあらん
寛緩と。弭艾がてら轂く先三十日程ハ逗留ト。阿萬との醜益も吉
辰を揃てね止ム。只管暇老婆も。嬪の令は重けど。老の意
を不慶却し。仰よあらざひみ鳥の。再旅趣ハ罷停ん。永滞留ハ不忠
の層平路費ものへんとぞ。逗留仕あつて。がく。心配もあ
らず。袖丐せんハかほるの学悟も。ちん諱ト。連々日も昏迹を
べ。松人ハ早ちるんと立揚ト。母ハ廢宿女タ餉の。梅備う良べ出
されよ。詞のりよりちゆきと。さわらば給んと喫す中。嬪傷
在て。金の畜ちとあると。有合とど。婚歟。行者もんま
やうすげとど。寛モと滞留をせよ。子のあくへつひく。
情識易てうりと。鉛色とれ。殆感じ。嬪の庇覆のつゝせよ。

れべきと。摩草鞋。疾帰と。とく。嬪の。身衣載く。墓懸野。苛急
情てぬく。跡を見送る。母菅子。造次頗拂も。嚴意よ。達健小丑れ
脚つきも。帰アレ。と。迷るん。瘡々頭の酒哉。覓置く。あらせん
と。歎待ハ他よ。小余絞の。ひき。と。趨凹く。跋小。阿多ハ灯臺の
禰未暗く迷く。角の火皿も累て。おひ農木又灯と點ド。門辺よ
出て母とす。晝に懷ひよ空そへ。おひ遇ふ月の勝後。母ハ喘て
歸す。其方をす。父を嫁へ。夕餉と。おひ疾寢も。更兼て。門
扉を敲。呼うぶ。とく。起出て。角く。とう。安堵て。駄。おも。老婆
ハ套房へ入よ。

○第十三回 あらわせ

春の夜の闇。斐ふく梅ちうて。杳ふも遠く。遺りあ。お

さればやい知よ。すぐきよのとと手弱女の元もみぐるぬ山里ひりの裏
うれまふ江のうと。阿暮の身ぬ胸ぬ月蘭人搔起採めす。丸く埋ひ
こたまく。小硯の海とてあくんをゆす。眼と和墨も曲つ。文と砂も
小曝石比千代りて婢の怡いし。妹伎の中と今更よ。毫の命毛砍る
まで。書詠る語章の。鹽あまく小純潔くと。懷底を微くと。筆
えで。書詠る語章の。鹽あまく小純潔くと。懷底を微くと。筆
えかとすと。ハ臥沈。声と放つて泣て。夜も寂寂と子匂の。達
ぞ百八煩惱の大あくにくよ滅里。鎖と接壁と毀ら。苛くと
衣の裂か。躡て勃寧兩個の兎賊。阿暮ハ鞠的。一たきどと。それ
と緑れぬや。アモ。婢ニ告んと更へやく。稍々と入て吐息吻莢入金
搜索人と挾室又入。懲慄震顫母子を牽出。倡金の在處をやく聞遣
逆語ハ活てて。一個ハ驚威。抜朴刀。老婆の眼。一見うじ。昔子ハ

声と歎して。おれ山住の貧ちふ。金などへうと有べきと。アモと聴け
婆子の懷中。掌とてつとて曳出。財布。首と係て。紐お剥擣に。
遣らじと引戮。阿露も母よ力と漆柳鞅面倒と女と蹠債しうの
朴刀とて搭膊の絆。絆的蜂音通しれ。砍。婆子ハ僵てと締綁服
其金やうて良きと。食と縋とバ拳の較。鳥霧と打筋斗倒う
阿暮ハおどろき呼活れ。財囊の掌よ入て。完尔と嗤て。操操回
し。沙金あくバ十兩ばかり。匿藏貨とりあがむ。弊埃匿言吐老體
うか。あくふゞうの金で。魁首も足納呼戾粗七。何とれかとて。這
女魁首のみをあが。死服人。應諾逃係の好駄賃。おどぞと己のみ一物
と。今奪得されおのれと。鵝斧。アマヤ高崎。昏とんす。天岡
あたま。早く済さん。粵宣ア。さあ。女は疾いとげと。囊金投せ

ハ美引畢馬六首尾よく歎詠て掣て本よ。猶て高崎で撞見と。却念貽
て粗セハ木よ猪うごと走てゆく。婢ハ眩暈失氣だ。甦葉よ水と向跑
半。右袖左袂根咽れ。女と拵顧馬六ぐ。如何覗も略グ。消魂種よ
脊をうご。汝と平安へねて往て。渾家君と敬をす。奚とく猪う
软と。又と僧き婢の離と。隕ノア後叙把より疾く。賊を的矚て
砲衝れ。奚未練術みと利腕捻揚刀懸年馬六ぐ。觀回傷の屢々怨輪。
堅翁せて綱とし。女と柱よ御慶婢ハ衝帰正とど。やうにへくふと張
望く。近瀬と起ゆと。わざと依舊臥居とれ。馬六ハ縦弭航備も方肆
とる。庖厨と拘喫斬見て。恁よくとかの酒盃。とくかくて怒詞と坐
く。僕侍の御好物耐底一献嘔却んと。瓶陶の滑替く。醇醪々々唾
嘶く。飲竟て。吐息姫姫や慙よやし。顛狂て。呻吟モ。醉がまうて

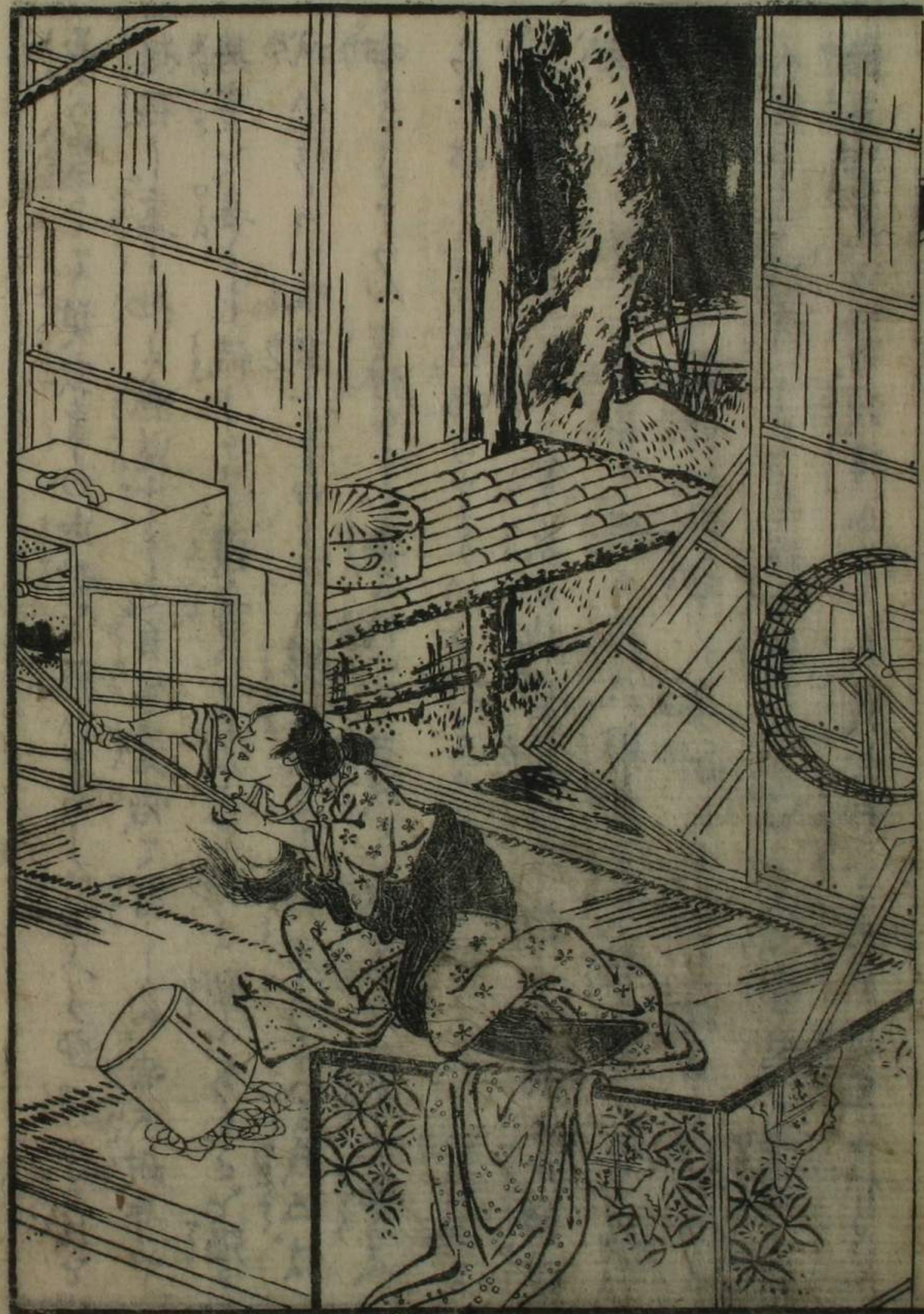
やく催環の舌れりともかみて。這ハ殆むりう。呼底もかと無音
雲。辰君の因縁己が功勳。兼略く。ひきけん。辰君とつゝ。吾門の鶴翁
平安よれつてハ美郎。今までの靈臺守熊公。万端握掌裡。このまう使
者の役目とて。高崎よ御逗留。明日ハ歸洛の内。戻族り。陸奥の產
ゆ名。あらのあとハ巨細の存。先年夷賊延治の頃。那須野毒を矢よ
ゆく。功勳せきと。あとも有ト。這般も生と。你們兩個よ。彼毒石
地の性灵根生石よ。と玷捉きと。密々令を畏て。かく。那須野ウも
ひども。今日秉きと。粗セ。よしと齋ヤて遣すと。ばす。妻のと
く。功勳。おの賞。百そ。禄被恤。もすと。あれ。路費も婆のと
暮して。沢山。さんと魯鈍。ある。かく。それゆ名其方と。併て往て。憲魁
首の不諾。たゞ。已。嬌。侍婢の。兩三個も。遣りせて。歎詠。あくと

琵琶琴も君があらうの隨意と。婿嬪係とば遊辟して。否く撒塵や
穢もくや。諭ひ醯きよあれとも。争汝うぶ傳つた小乞こごとがもんや。青雲望ま
ば婢めいの金をと偷打擲うとうする。強敵鳥合とうがの畜生ちくせい。對話たいらことも口汚
と。うよ馬六耽たん。そく濡ぬく女嬪めいうす。言嬪めいくよ不識足畜生ちくせいと
も過言かぎあり。倡うながりのアせんと件あんけ朴刀ぼくとう。閃馬めんば。勦係じく。否く殺畠さつじやう
弑じせ畜生ちくせい。相對あつてかあらうと白しら背せも。盜鋪とうひよ。諭しゆ。告おほへり。どうく
松人裡置廬まつじんり ちりばらと罵劇まげき。いふと彷徨表扉口ほうりょうひょうびんぐちとちうび馬六
へ。阿彌あみひへ覆おひ怒おこ一ひと眞ま。僕副わくふ。慾おほめ殘忍ざんにん。奸あん嬪めい。黄縁こういんせま
き。母菅子めいあわ。ねこくへつてかの賊賊。挈債けいたい。鬪たたかみ銃じゆ。組くみを移いはい川
すれ間ひま。女阿彌あみも身と躲ひ内うち。憐あやむ。忌きむ。その腔竅くわうとう。礎いしづと載のる繩いの
縄いの。哈法ハハと輒たまて間不容髮まんゆうひ。刀を拾ひひ徵ひもせど。柔軟じゅうじょふく。婢めいと

なしき。すてひ。賊賊よ研けん係けいも。そくはねねづと結局けつごうと劍板けんぱん執つかす
もやく。ひちの暗ひ一ひと雛ひな登のぼ。珍息じんきとあらべぐ。母めいもおどろく。松人まつじんを
今敷ひき入いく。縱挺よこてい戻もどせびつ。早足はやあしの捷術てつじゆ馬六まと。撰せん軋鶴せんせき
的てき。去兩よつ。截壇さいだんある。あうよ。燥脾そうひ。膚肉ふにくもみよ。慌あわた。汾は。
窓まどと。走はし。挺欹ていきと。抱いだき。先まへ。水みず。穰きつけ。身みと。夕抱ゆふいだ。婢めいへ。僻ひ
正ただ義ぎ。稍すこも。がく。眼まなこ。勝かつ。啓あけ。自じと。費屠ひとと。つ。草くさの皺しわ
とり。かと書か。掌てへ。あく。松人まつじんよ。濟濟。いと。と。寂じ。彷彿ぼうはく。瞽めい
公ワお。答こた。支しの。あう。シヤ。そ。辭世じせ。と。合十死ごうじ。兩ふた個こと。ねうみて。陽よう禡む
も。母めい。乃の。ジ。え。ば。惱うな。此こ。近ちか。ア。そ。そ。以い。死し。松人まつじんも。僵じょう。酸鼻さんび
目めと。拭ぬぐ。乃の。多お。多お。の。あ。そ。水みず。革かわ。奄うな。ひ。も。ア。れ。よ
飄形ひようけい。月つき。日ひ。比ひ。循く。還か。く。ら。と。載の。之の。の。備そな。と。後あと。停とど。

とて恤う。憂愁と手をて室の上へろりと身をひそめても
ひそむ。夜中へ続つて一夜よよ過て行つの湖をも。りふ中とい
海松和布う。敏る浦のあそべー。契ももすと夢のま。たの僕の
躬よそく。おもひくさん術も。おれへ弱く。舊とぬれ。知足さ
僧住。寧れもぐくと。おのへ結句四つとも。ナと後ひれあら
して。言ひかづけじがれ。あくやくは撃攻て。今島や又は櫻う
ん。島や倒側の水泡と。きゆとも卿よもととん。眞とゆふも
す。あれべとくとせよ在て。何昏樂よすごさん。詣とゆふも
幽府と。まちえみと自憐。允も稚きよどりと。役理令の玄
死ん。まどせくよ不量。哥々ときしハ金乳根の割了移襟せ
し良人と。ちうる孫含情の伎通。まくへあくびて藻のりの我ら

至る里あるて。喫寂幸の少教と観ひゆくをもす。幽婢のあはと
援根し。裏く他よ弑逆する。自害覺悟て方へるや。嘯不耐异や
其處と。妻よと続く。遺書のとくと眼と聲と。あくと強
烈ひげく。唯業ト。あくす。婢よあく。老年のま。我ぬば
呻きよすん勿体き。妻よ代つて苦技と。最堅と諱くと。勵う
ちとせう。黄泉路のやうひよもと。芳服とど繡の掛
姿と官賛と。模と賀采と換。獮角と入一鏡と。黃楊の川柳拂
枝も。行ク厭うん交易て。婢の譜れ鮮奥葉子。轉まくせぬ
く。貳微亟あ。然瞻ひ。瘡起く。要剖く。アモ枝ゑくねく
人。夜日よ。諱孝と。と。瘡母報ひ。おもと。一章完と哽咽と涙
飲草をも。渾津あ。入葬と。松人と。迎家と。代くし



良人ありと一卓も。ひきやへは言情由も。不義胡也と
憎りし。唯うよとも許さず。堪忍をして一遍の回向の水と
まくば未来のまじ暗めべ。すこしことの胸遍て。あひとよ
魯で毫遍まくをこすぬ。千をの松人ふ。難ば需とよむ安
小うどり

急ちかば無も死もや吹すし。風のりくの草の木の宿
み男て。赴き業と女と矣。即経と頼られ母ち西教か
みの裡。まゆら修が魂の猪と。多くれ余よ學すも又よつて
停る。愛餘唱の歌聲や。行程多倍と寛と。這綠林よ殺害す
べ。又理會と行べきと。とおの闇馬ハ女の讐。あふやうと。苛
くも生れした。城を先賊對立と。憤りひよ記性快ほ婚いのう

小女と製成と。自誇語と居て。小女奴魁首守熊と名ふん。
這般那須野の毒石と。吉傳兩個がねせとうけ。採得ての帰途
女と賜く往んといひ。僅平安よち愁と。よりのあうやと
結向。松人號的あそと。従残貴の家頃青雲。彼奴毒石
と志望も訝し。何うせよ其傍覗や。つまみの毒石ちよ
あう。かの一ねと黒乳翁。いま一個の益賊担七と。其方
よ遣人と匿て一金と奪ひと。一袖と。齋遊と。の嚮の二
と。アヒ耳もしけみづ。傳や御太刀の憑矢と。搜しよげふま
かくば支黨兩個つゝ。未穿果たく。死する。賊の懷と。拔索那凹
墜散孤章。吃と。賜も駄よと。ひきと。ば這へいよ雀丸の宝鏡
沙子兩個の計策いく。誰かく掌極邊すよ。這よ依て。目擊手の裏裏

沙金廿兩中あらずすす。領把とよどし。更再との入づきよ
まづぬまう。馬六の坦セど。守熊とくと書くう。借ハ鴨塘
コモ。守熊とくと間う。其の兩個又太刀暴くをしつと。灼能う
澄松とくとく。松人へ天と拜一地と拵し。蟄懷一時ふ雲くうと。萬
踊騰て軟了ふと涯か。婢ハ耳と仄陋てうの的名ハ馬六坦セ。さ
く馬六とく這死とれ賊う。僅ま漢のたれ鶴巣ハうんやそなぐと。
又松人もうよつて兔傍伏とく馬六が袖とみせば癪ある。腸母ハ
祝記ある。驚よ。敬仰天竊薄と。とくとて覗ハちとともすと。つ
子でうとし不便ヤと。とくと小あみどは城く。松人りくと。巡察
おとく。霞村弥五七あうりの子す。あ今の子と換て囁つとす
し。稚さとくよきくとす。おもあらと防衛の似と。さ

單て逮殺略ハ阿夷グ美比鬼あくと。悔く歎けば否そのを申うれ
其方のくろかと仇敵ありと。今更。發記憶ハ十八年。私と
産どくとハグ耻。馬六阿夷と双字。育てぬとのと詠。梵
藁のくへく。称五七。遣ての後へ他人射。陰うとしけハ隼人横筋も
のつて。御立七ハ義理あり。あぐら看擣せと。冥てふ便さとすと。ども。
素ろばく。ばえよ。いもぬ眞莢配匿。ワシと間もあひどや。蜀
小うあるとあみだらよ。妻よせんとひーと。穢く。畜生と。ひー
自抗と備。兄妹。お兄妹。己がふて同漏刻。寢滅。いふる。報。放
あくとどと。兄への名も畜生で。妹の名ハ鹽消。名詮。自性。うさうと
も。庖厨索せ。一磚蟬。このとの酒とえとも。うべ飲んで死。不便
や。母。母手自浴てあて。お母の水よ異んと。豈覓置。がた。女。もし又

のあてつ。平安の兄とくと馬六。どと處へ歎きよ。ひ印さん
と薦へ看護されても僅やまと。のうれしとすやと。頑うう
ど不便さん。却て寝とうりへどや。かうありまく一矣あらば。替あら
生半よいとんもの。歟。星とた五年画。うううの兄が一刻よ。戻つて臺をえ
れことや。斜陽と俟ぬ葬よう。監きらるの路侶と。鞭とや齊て一
顛ふ。冥途へげれんふ。もと六歳よ子歿親れと。名前とで脆き離
あざと。逍太遠くと諱くと。口解きととてび臥転ふ。うそ男と
兄妹の亡體葬れ。客。両の境と雙し。現下野の摩山と。つまみ
世主と名所。口碑のじとう回縁へ。あもとともすと最珍珍と。りく
より勇の放へ。ゆと豪よ遇ひいとあく。老の諭言ある夕よ。聆こ
の山よ慈せんと。鳥の啼ども鳥よども。如ぬワガ身の純すと。挫口

説ほく三日五日累七日の吊ひを。婢を勧る松人。仰のうちよ御
剣の在糸證。僕侍あらうわわの御も。這川の足利へ。侍は下向て内座
と。玲嬢公孤獨躬さへ。豪と。ひやあらば。鼓へ。傍ひやくせ
ん。那辺の養司あふくと。指揮もとゆも。仰をと。紛冗とのあ
らんと。勧倡あらうせ。掌と。とくべ。母の飛鳥の翅と。銀游魚の鱗
と。おれちりひ。先後委託の兄妹と。憑く。杖と。今と竹よ。たうち
化み世の成行。有鳥轉変の如落亦如雷。生滅々已明の。纏。一脚往
來の。二脚とてハ掌を含せ。佛果菩提と念じて。決校。モト。にゆ

曰く

後撰集

小野篁八十嶠うけ米之四下終

